

大阪アミューズメントメディア専門学校  
第1回学校関係者評価員会報告書  
(令和3年度)

学校法人吉田学園  
大阪アミューズメントメディア専門学校

2021年12月1日  
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校  
令和3年度 第1回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：2021年12月1日（水）17：30－19：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6階ライブラリー

外部委員：赤松加枝子 大阪放送株式会社 編成部長  
香川悟 一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会理事  
安道やすみち 小説家・ゲームデザイナー

内部委員：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長  
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長  
朝日庸平 大阪アミューズメントメディア専門学校 事務局副部長  
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課課長  
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター係長

議事進行：朝日庸平

- 次 第：(1) 学校長挨拶  
(2) 令和3年度 中間報告
- ① 前期授業運営 (下間教務部長)
  - ② 学修成果/就職状況 (岩本キャリアセンター係長)
  - ③ 2022年度 入学生募集状況 (朝日事務局副部長)
  - ④ 学校運営/学生支援 (飯間学生課課長)

## (1) 学校長挨拶

平素は本校の教育理念にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。本年度も4月からコロナ禍に見舞われ、どこまで制限を受けるか、また学生の学びの場を確保し被害を最小に抑えていくかを十分留意しながらの学校運営を行ってきました。並行して、感染者を出さないように十分な感染対策をとり職員からの感染者や、学内の集団感染を発生させることなく今日を迎えることができました。技術を教える学校として、できる限りの登校を実現するため、分散授業やオンラインなど柔軟な授業形態を実施した結果、学生からの満足度を維持しつつ、就職や進学に大きな影響はなかったことから、関連企業やプロダクションから支持された手応えを感じています。

## (2) 令和3年度 中間報告

令和2年度学校関係者評価会議の内容を踏まえ、令和3年4月1日から10月30日までの中間報告がなされた。

### ①前期授業運営（下間教務部長）

#### ①-1 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや、学習時間の確保は明確にされているか

##### ア 考え方・方針・目標

本校の教育理念としている産学共同現場実践教育に関して教職員は理解しており学生が目指す業界で、長く活躍できる人材を育てている。

##### イ 現状・具体的な取組等

各業界での最新ニーズをもとに、業界で活躍する講師を中心に、必要とされるスキルが習得できるカリキュラムで教育を行っている。

##### ウ 課題と解決方向

エンタテインメント業界のニーズは常に変化している。例えば映像コンテンツの消費が放送から配信へ移っていくなど、コロナ禍でより加速されたものもあり、本校のカリキュラムについてもニーズに沿って変化させて行く必要がある。

#### ①-2 キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか

##### ア 考え方・方針・目標

学校独自の動きだけでなく、グループ業界企業からも最先端情報を得て、教育に反映させている。

#### イ 現状・具体的な取組等

コロナ禍においては、オンライン授業やPCなどの機器の貸し出しによる自習の推進などを行い、最新のニーズにこたえることができる、スキル習得を目指している。現状では十分に達成できる見込みである。

#### ウ 課題と解決方向

コロナ禍を契機に進展した教育のデジタル化を今後も推進し、意欲ある学生の学びの機会を最大化できる取り組みを進めたい。

### **①-3 成績評価・単位認定、進級・卒業認定の基準は明確になっているか**

#### ア 考え方・方針・目標

「成績判定会議」「進級・卒業認定会議」は、年頭にスケジュールが確定し実施されている。また補講授業等が必要な学生についても組織的な対応をしている。

#### イ 現状・具体的な取組等

本年度の前期成績判定会議は予定通りに開催され、前期成績が判定された。コロナ禍の影響で前期の授業を予定通り行うことができた学科はなく、前期終了科目の多くが通期での成績判定へと持ち越された。

#### ウ 課題と解決方向

成績判定については、以前は学科によって成績判定の解釈が異なることもあったが、教員が共通の認識のもと判定できるようになっている。ただし、奨学金や修学支援新制度で必要となるGPAが相対評価であるのに対して、本校の評価体系は絶対評価が原則となっている。現状で大きな問題はないものの、次年度に向けて相対評価の基準を設ける必要がある。

### **①-4 総括（授業運営、休学/退学者数、その他教育活動について）**

コロナ禍の授業運営についてはオンライン、分散登校などを行ったことで、現時点まで校内での新型コロナウイルス感染を出すことなく運営を行うことができた。一方、4~5月の登校停止期間の影響で授業予定が約一ヵ月遅れで進行している。ただし年度末までには当初予定通りの授業を行うことができる見込みである。また休学/退学者数については例年と大きく変らない水準で推移している。

### 【質疑応答・感想】

- （赤松委員）新型コロナや半導体不足の影響を受ける中で学生ファーストの最大限の対応が伺える。
  
- （安道委員）デジタル化を推進したとあるがコロナ収束後もオンライン対応を続けていくのか。  
→（下間部長）オンラインだけにシフトするのではなく、オンラインでもできる環境を整備していく方針。制作する学科が多いため、熱心な学生が帰宅後も取り組める状態が理想的と考えている。
  
- （安道委員）オンライン授業は、様々な理由で学校に来づらい学生が出席しやすいという反面、講師陣の立場からは学校に来てほしいという思いも強い。詳細な制度整備など学校側のサポートが必要。
  
- （香川委員）講師の立場で、登校授業とオンライン授業の満足度や習熟度に差を感じる。  
→（森学校長）オンライン授業はあくまでも視聴ができる程度の補助的なものに留め、授業内容によって視聴のみで登校と同じ効果が得られると判断したものに限り選択できるようなものを想定している。
  
- （安道委員）別の講師の内容が被りすぎていると学生から発言があった。講師間で授業の連携が取れていないのではないかと。また学生への授業の趣旨説明が不足して不満の種になっているのではないかと。  
→（森学校長）率直な意見を学生が担任に言える環境が重要と考えている。また講師の評価を含む学生アンケートを実施し、講師会に取り入れていくことを検討している。
  
- （安道委員）講師と学生で授業の認識に対するズレが有ることについて。担任を見ていると忙しそうで一人ひとりのケアを行うには手が足りていないのではないかと。本来チューターが担任の補佐を行うべきだが、実際は個別添削など学生のための業務を行っており、そのコントロールのためより業務が増えている現状にみえる。副担任が常にいるのが理想ではないかと。  
→（森学校長）一般的に専門学校における教育体制は、担任1人に対し学生100人程度となっている。本校では副担任を配置する学科もあるが、分野ごとに統括する人間を置くことで業務負担の分散を図っている。担任がカリキュラムを熟知し講師に指示を出せることが求められると考えている。

■（香川委員）学生に対する自主性を求める側面が強いように思うが、その反面成績評価が甘くなっているのではないか。

→（森学校長）本来 AMG の方針ではカテゴリとして成績表が本来一律で評価する事ができない分野であると考えている。学校法人として国の援助を受けていることから、その制度に当てはめるため最も重視するのは出席率となっており、一部講師によってはテストを実施している人もいる。

■（香川委員）頑張った学生が報われる仕組みがあるべき。競争心を煽らなければ、今後のクリエイターの世界で生き残れる人材を育成できないのではないか

→（森学校長）学校法から考えると、公平性が非常に重要な点となる。しかし、実際のエンタテインメントの世界は最も公平とはかけ離れた業界となっている。インターンシップなどをカリキュラムのマイルストーンにできないかと考えている。

## ②学修成果/就職状況（岩本キャリアセンター係長）

### ②-1 就職率の向上が図られているか

#### ア 考え方・方針・目標

本校は、エンタテインメント・コンテンツ制作業界を支える人材の育成を目的としており、その集大成ともいえる就職率向上のための取り組みは特に重要と考えている。

#### イ 現状・具体的な取組等

1年次から就職ガイダンスや進路面談を実施している。昨今の状況を鑑みて面談、履歴書添削はオンラインでも対応可能な体制となっている。卒業年度の学生に対しては10月までの間に学内説明会を43社、クリエイター面接（模擬面接会）を25社実施した。

#### ウ 課題と解決方向

学内でのイベント開催は、クリエイティブ業界のなかでも採用人数が多いゲーム企業、アニメ会社が大部分を占めている。雑貨メーカーや広告系業界など2Dデザインのスキルを生かせる企業の開拓も必要と感じる。

### ②-2 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

#### ア 考え方・方針・目標

エンタテインメント・コンテンツ業界のニーズに沿った人材育成は、重要な課題と捉えている。また求人への斡旋、教員の候補者開拓の観点からも、業界で活躍する卒業生の動向把握は必要と考えている。

#### イ 現状・具体的な取組等

実践的な教育内容は、就職先企業をはじめとした産業界からも評価を得ていると感じる。卒業生に対しては就職相談・転職相談をはじめとした就職支援の取組みが中心となっている。

#### ウ 課題と解決方向

卒業生との関係については、職員と卒業生の個別の繋がりによって成り立っている場合も多く、組織的な情報収集には至っていないと感じる。

### ②-3 進路・就職に関する支援体制は整備されているか

#### ア 考え方・方針・目標

本校は、エンタテインメント・コンテンツ制作業界を支える人材の育成を目的としており、その集大成ともいえる進路・就職に関する支援体制整備は特に重要と考えている。

#### イ 現状・具体的な取組等

キャリアセンターの職員3名が各学科の就職ガイダンス、進路面談、企業採用担当との窓口を担当することにより、責任を明確化している。声優学科は担任が進路オーデイション・就職に関する支援を担当している。

#### ウ 課題と解決方向

近年、より一層学生のニーズが多様化している。(例) シナリオ関連、Vtuber 関連、中国四国地方へのUターンや障がい者求人に関する相談も増加傾向にある。各学科につき数名ではあるが、そういった少数の希望者にも支援体制が整えられていることが学生の満足度向上に繋がると感じる。

### ②-4 総括（就職実績、進路指導活動、業界求人情報など）

昨年同時期との就職率比較は下記の通り。

学科	2020年10月末			2021年10月末		
	決定	希望者	割合	決定	希望者	割合
ゲームプログラマー学科	11名	44名	25.0%	23名	44名	52.3%
ゲームプランナー学科	8名	27名	29.6%	4名	19名	21.1%
ゲーム・アニメ3DCG学科	14名	37名	37.8%	16名	33名	48.5%
アニメーション学科	13名	32名	40.6%	19名	29名	65.5%
キャラクターデザイン学科	3名	43名	7.0%	11名	62名	17.7%

昨年度（2021 卒者）の学生と比較すると、オンライン説明会への参加や応募書類のデータ化はスムーズに対応しているように感じる。ゲームプランナー学科以外では、昨年同時期よりも就職率が向上している。

コロナ禍の影響でゲーム業界全体が好況ということもあり、プランナー職・プログラマー職は選考において例年よりも大学生と競合するケースが多くなっている。

またプランナー職は、コロナ禍以前より総合職に近い採用基準を設けている企業もあり、採用のハードルが年々高くなっている傾向がある。

### 【質疑応答・感想】

■（赤松委員）専門業界企業だけでなく一般企業への就職指導も行うのか。

→（岩本）個別で一般企業への就職指導も行っている。おとなしい学生が多いこともあり、サービス接客よりは製造業などの業種を希望する学生が多い。

■（赤松委員）オンラインの就職試験も行われているのか。

→（岩本）書類選考から最終面接まで一度も会社に訪問しない場合もある。特にゲーム業界はその傾向が強い。

■（香川委員）昨年比較でなく過去3,4年の傾向比較が望ましい。コロナに限らず、年度による波があると思われる。

■（香川委員）フリーランスやデビューは実際のところ生活していけるのか。例えばキャラクターデザイナーで仕事を受ける環境の作り方などは教えているのか。

→（森学校長）デザイナーなどが自分の作品を発表する場や、その手段なども教育している。フリーランス志望の場合、一旦就職してフリーランスを目指すよう指導する場が多い。

■（赤松委員）就職率に関してフリーランス、デビューを目指す学生をどのように取り扱っているのか。

→（岩本係長）大阪府や文科省へ提出する調査などには就職者の定義がある。自営業なども含まれるため有償で仕事の依頼を受けている学生については、フリーランスとしてカウントしているが、実績のない学生についてはカウントしていない。

■（香川委員）資格を学校内の時間を使い、塾のように追加料金を払って学生がより上を目指せる枠を設置してもいいのではないか。

→（下間部長）職種によっては英語が必要な求人もあるため、検討する価値があると考

えている。

→（森学校長）経営的観点からも検討が必要である。

■（安道委員）卒業後の情報収集について、卒業生から現在の活動を収集できるシステムがほしい。

→（森学校長）大学などでは、定期的な情報更新依頼が来る。OBOG ネットワークを拡充し HP などに情報を収集していくシステムが必要と考えている。

→（赤松委員）OBOG が自主的に発信できるものが望ましい。

### ③2022 年度 入学生募集状況（朝日事務局副部長）

#### ③-1 学生募集活動は、適正に行われているか

##### ア 考え方・方針・目標

入学希望者および保護者には、エンタテインメント業界における具体的な就職状況や仕事内容についての情報提供を積極的に実施し、不本意入学等のミスマッチが無いように努めている。

##### イ 現状・具体的な取組等

各種進学ガイダンスにて分野に関する説明と学校生活に関する情報提供を行い、高校生に対する進路サポートを行っているほか、体験説明会での現役プロ講師による体験授業を通じて真実性のある説明を実施している。また、コロナ禍になってからは、オンラインでの実施を強化し、進路決定の新たな仕組みを確立している。

##### ウ 課題と解決方向

特にオンラインでの情報発信に関しては、説明内容に誤解を招かないよう細心の注意が必要だと考えるが、真実性・具体性・明瞭性を更に追及する必要がある。そのため、関係者の意識向上のための勉強会や客観性を養うための外部団体による講習会への参加などを通して担当職員の知見を広げていきたい。

#### ③-2 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

##### ア 考え方・方針・目標

入学希望者が十分に判断できる材料を提供するために、真実性や明瞭性・法令遵守に配慮した情報の開示・公開を実施している。

##### イ 現状・具体的な取組等

卒業生の活動状況や在校生の就職実績速報を学校パンフレットやホームページなどで掲載・説明を実施している。

#### ウ 課題と解決方向

情報提供という観点において、事実を正確に伝えられているが即時性を重視した動画配信による成果報告の仕組みを確立していきたい。

### ③-3 留学生の受入れ・派遣、在籍管理等において適切な手続き等がとられているか

#### ア 考え方・方針・目標

今や世界基準である日本の制作現場を目指す意識の高い留学生を積極的に受け入れ、優秀な人材の育成・輩出することが重要だと考えている。

#### イ 現状・具体的な取組等

開校以来、留学生の在籍実績がないことから、入試制度や在籍管理体制の確立に向けて準備を進める予定であったが、コロナ禍の影響によりほとんど活動ができなかった。

#### ウ 課題と解決方向

一旦中止していた留学生マーケットのリサーチ活動を再開し、具体的な留学生受入制度の確立を至急に進めていく必要がある。

### ③-4 総括（出願数、募集活動報告、次年度方針など）

#### ア 入学者数

- ・2021年度生：10月末現在-216、結果-465、総定員-480、定員充足率-96%
- ・2022年度生：10月末現在-226

入学者数は昨年度の同時期と比較して微増していることから、進路決定時期の後ろ倒し傾向を考えると、今年度に関しても定員充足率90%以上は維持できると考えている。ただし、経済的な事情や大学進学による入学辞退の動きも一定見られるため、個別相談会など進路相談の機会を広く設けて個人の事情に即した情報提供を実施している。

#### イ 募集活動報告

新型コロナウイルス感染者数が増加した4月～7月については、体験授業などの来校による取り組みを、完全事前予約制個別相談会・YouTubeで気軽に視聴できるオンラインオープンキャンパス・zoomを使ったオンライン個別相談会などに切り替え、社会情勢に即した活動を行っている。

入学選考についても、エントリー方法や受付期間のほか、オンライン面接の実施な

ど情勢を鑑み毎年見直しを行い、公平かつ正確に適正な選抜を行っている。

### 【質疑応答・感想】

■（赤松委員）コロナ禍にあって入学希望者が微増しているのは評価できる。

■（安道委員）留学生を受け入れることで授業の体制に変更を加える必要あるのか。

→（朝日副部長）必要なし。一定以上のコミュニケーション能力が備わった留学生を受け入れるため、講師に特別なサポートを要求することは考えていない。

## ④学校運営/学生支援（飯間学生課課長）

### ④-1 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

#### ア 考え方・方針・目標

情報システムを整備し、業務の効率化や適切で正確な情報共有・管理を行う

#### イ 現状・具体的な取組等

現状は部署や学科ごとの情報管理を行っているが、11月より学生管理システム infoclipper を導入。本格始動に向けて、登録情報の整備を進めている。

#### ウ 課題と解決方向

2022年4月から学生管理システム infoclipper を本格的に活用し、学生の個人情報・指導状況や各種帳票を安全に一元管理できるよう、整備を進めていく。

### ④-2 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか

#### ア 考え方・方針・目標

入学希望者や在学生在が就学するために、適切な経済的支援策を提案する。

#### イ 現状・具体的な取組等

入学生に対しては、各入試制度による授業料減免を行うほか、各種教育ローン等を紹介している。在在学生に対しては、GoogleClassroom 等を活用し、日本学生支援機構の奨学金や、高等教育修学支援制度（授業料減免）についても適切に案内している。入学生・在在学生共に、納入時期については個別で相談に応じている。しかしながら、授業料減免対象者（経済的困難なご家庭）についても、一律で前年度中に学費全額納入が原則なため、保護者からご意見をいただくことが多い。

#### ウ 課題と解決方向

引き続き、個別の状況を考慮した丁寧な対応を続けていくが、経済的困難な学生が増えている中、学費納入時期についても、現在の方法と時期が適切かどうかは再考していきたい。

#### ④-3 保護者と適切に連携しているか

##### ア 考え方・方針・目標

学生の修学支援のためには、保護者への情報共有や連携が不可欠である。

##### イ 現状・具体的な取組等

保護者との直接の連絡システムが確立されておらず、学科ごとの教務指導に依るところが大きい。

GoogleClassroom を活用しているが、学生向けのツールのため、確実に全ての保護者に伝わっているとは限らない。1年次の秋ごろに、2年次学費案内送付にあわせて、保護者宛のリーフレット「AMG ナビ」（各学科の活動報告等を掲載）を発行し、郵送している。

##### ウ 課題と解決方向

保護者に向けての連絡方法や回数が少ない。利用可能なツールを活用しつつ、保護者への連絡頻度を増やしていく。今年度末に保護者に向けて1年次成績通知を予定している。

#### 3、総括（奨学金利用状況報告、コロナウイルス感染状況など）

奨学金利用者数は、増加傾向である。

給付奨学金：165名（1年：87名 2年：78名）

第一種奨学金：170名（1年：99名 2年：71名）

第二種奨学金：226名（1年：123名 2年：103名） 令和3年11月現

##### 【質疑応答・感想】

■（赤松委員）保護者の方への確実の情報共有は非常に難しい。また奨学金の手続きや制度などが複雑化している。

■（香川委員）学生管理システム導入にどのような変化が期待されるのか。

→（飯間課長）infoclipper の導入により、学生の入試から卒業までの出席、成績、進路などのカルテを一元管理できるようになることで、業務の効率化を図る。

- （香川委員） infoclipper は講師や学生、保護者も見ることができるのか。
- （下間部長） 講師の方には infoclipper ウェブ版で出席を管理していただくことになる。学生や保護者確認のオプションは現時点で未導入であり、運用していく中で必要性を判断していく。

以上

大阪アミューズメントメディア専門学校  
第2回学校関係者評価員会報告書  
(令和3年度)

学校法人吉田学園  
大阪アミューズメントメディア専門学校

令和4年3月21日  
学校関係者評価委員会

学校法人吉田学園 大阪アミューズメントメディア専門学校  
令和3年度 第2回学校関係者評価委員会報告書

学校法人吉田学園の学校関係者評価実施規程に基づき、大阪アミューズメントメディア専門学校 学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、次の通りご報告いたします。

実施日時：2022年3月15日（火）17：30－20：00

実施場所：大阪アミューズメントメディア専門学校 6階ライブラリー

外部委員：赤松加枝子 大阪放送株式会社 編成部長  
香川悟 一般社団法人デジタルエンターテインメントクリエイター協会理事  
安道やすみち 小説家・ゲームデザイナー

内部委員：森憲司 大阪アミューズメントメディア専門学校 学校長  
下間正巳 大阪アミューズメントメディア専門学校 教務部長  
朝日庸平 大阪アミューズメントメディア専門学校 事務局副部長  
飯間陽子 大阪アミューズメントメディア専門学校 学生課課長  
岩本真穂 大阪アミューズメントメディア専門学校 キャリアセンター係長

議事進行：朝日庸平

次 第：(1) 学校長挨拶

(2) 令和3年度 振り返り

- |                 |                |
|-----------------|----------------|
| ① 授業運営          | [下間教務部長]       |
| ② 就職状況          | [岩本キャリアセンター係長] |
| ③ 入学生募集状況       | [朝日事務局副部長]     |
| ④ 学生支援          | [飯間学生課課長]      |
| ⑤ 令和4年度学校運営について | [森学校長]         |

## (1) 学校長挨拶

3月11日に5期生408名が無事に卒業することができた。5期生は入学時より授業の大部分が分散かオンラインでの実施となる学年であった。卒業式では制限のある学校生活を強いられた中でも努力をし、卒業していくことに謝辞を申し上げて送り出した。保護者アンケートを拝見していると、一定の好評価を頂いている一方、学校運営に不満の残るご意見や、一部進路が決まらなかった学生の保護者からの厳しい意見が例年より多くみられた。ひとつひとつに目を通して職員全体に共有し、少しでも改善するよう来期の体制を組んで行きたいと考えているところです。

## (2) 令和3年度 振り返り

令和3年度第1回学校関係者評価会議の内容を踏まえ、令和3年4月1日から令和4年3月15日までの、一年間の振り返りと報告がなされた。

### ① 授業運営 [下間教務部長]

#### ① -1 カリキュラム編成について

新型コロナウイルス流行対策として休講・オンライン授業・分散授業を行ったため、昨年度に続き当初の予定を大幅に変更して授業を行った。具体的には4月の大半が休講となったため、夏期休暇を短く設定し2月初旬まで授業期間を延ばすなどの対応を行った。結果、全学科期間内に所定のカリキュラムを消化することができた。

#### ① -2 関連分野における実践的な職業教育について

例年のような対面での教育は少なくなってしまったものの、昨年度よりは、対面、登校しての授業運営を多く行うことができた。オンライン展示会などのイベント開催も手馴れてきたこともあり、スムーズに開催することができた。

一方、コロナ禍下あるいはポストコロナ禍に向けての更なる新しい教育手法の開発は、ほとんどできておらず、今後の課題と考えている。

#### ①-3 成績評価・単位認定、進級・卒業判定について

##### ① 2021年度前期成績判定会議 2021年9月17日実施

コロナ禍の影響で、授業開始が遅れたことと、登校する人数を減らした分散授業を行ったこと、また成績判定上の前期終了日を8月31日に繰り上げたため、多数の学科で消化された科目や単位が少ない状況となった。

##### ② 2021年度卒業認定会議 2022年2月18日実施

休講やオンライン授業・分散授業を行ったため、単位取得に必要な授業の消化状況

が懸念されていたが、卒業認定会議までに必要な授業を終了することができ、全学科で410名の卒業が認定された。オンライン授業の割合が多かったこともあり、長期欠席から退学休学となる学生が例年より少なく、年度初め在籍者の97%超が卒業を認定されている。

また今回の認定会議より一部試験的に新たに導入された学生管理システムを使用している。

### ③ 2021年度進級認定会議 2022年3月18日実施予定

進級認定会議では、新たに導入された学生管理システム（InfoClipper）の活用が始まる。試行を経て、令和4年度から全面的に使用する予定。

### ①-4 総括（活動報告、次年度方針など）

感染対策がこなれてきたこともあり、今年度は学校内での感染拡大を発生させることなく一年間を送ることができた。来年度こそコロナ禍の終息が願いたい、次年度も当面は引き続き感染対策を徹底していく必要がある。

次年度の活動としては、先の項目にも一部記載したが、コロナ禍の状況いかにかわらず、コロナ化で取り入れたオンラインなどを活用した教育手法を、ポストコロナに向けての活用方法を検討していきたいと考えている。

### 【質疑応答・感想】

- [赤松委員] 世の中が変わった中で無事に卒業できたのは喜ばしい。どこの学校においても今は保護者からの厳しい意見が出ているが、コロナ禍の不条理に対する不満が溜まったと影響も考えられる。
- [香川議員] 昨年度と比べると、2年連続でコロナ禍の学習環境を強いられた2年生は可愛そうだったと強く思う。その一方で不満を感じていたり、十分なサポートを学校から受けられていないと訴える具体例はどのようなものか。
- [森学校長] 不満の具体例として、校舎設備費はオンラインでは不要ではないか、分散では授業量が半分の量になっているのではないか、などの意見が9割程度をしめている。進路が決まらなかった学生の保護者については、講師の指導方法に言及するなど学校の責任を問う傾向があり、学校に対してはいい印象は持たない場合が多い。担任、講師、学生、保護者のコミュニケーションを増やすことで改善につながると考えている。

■ [赤松委員] 設備費や授業料の取り扱いについてはメディアでも取り上げられており、多くの大学等で問題となっている。設備維持のために必要であることを理解した上で、不満を訴える方が多い印象。

→ [森学校長] 実際はオンライン化を実現するための通信設備の整備などにより、通常より多くの費用がかかっている場合が多い。授業については、規定に従い年間 850 時間以上実施しているが、保護者目線では授業量が少ない印象や、オンラインでは効果が薄いといった感覚に陥りやすい。

■ [安道委員] 徹底した感染対策によって、学内でのクラスターを出さずに学生を集めてのイベントを実施できたことは評価できる。

■ [香川委員] 学科によって、対面での出席率が非常に低い学科と、例年に比べても対面出席率が高い数字となっている学科がある。高い卒業率に反比例して就職率が下がっているのではないか。通常授業であれば、早い段階でミスマッチに気づき退学している学生が、漠然とオンライン授業に出席し続けた後、退学あるいは業界就職できないまま卒業してしまっているのではないだろうか。

オンラインがあったが故に自身の非を消化できないまま、(オンライン授業に)出席したのに就職できないという責任転嫁が発生してしまうのではないか。講師の立場からすると授業に出席している学生に集中して授業を行ってしまう傾向は避けられないだろう。オンラインを選択したのは学生だが、あくまでも学校のシステム上での選択であり、メリット・デメリットの説明が不十分だったのではないか。

→ [下間部長] オンライン授業でやり過ごすことを覚えている学生がいる。強引に対面の出席率を上げることは不可能ではなかったが、「保護者からコロナ感染防止のため、登校すると言われていた」と学生から主張されると強く指導できない部分があるのは事実。出席の認定をより厳格にする必要があると考えている。

→ [安道委員] 学生の理解度を高め、授業に集中させ、判定を厳格化する施策は考えられるのではないか。一例として、「授業終わりにキーワードを指定した 300 字程度のレポートを提出させる」といった手法も可能だと思う。講師の負担を抑えつつ、学生の参加と理解度を確認し、授業の復習とアウトプットの習慣づけを行うことができる。

■ [安道委員] 一部の学科学年においては、対面授業への出席率が振るわなかったことが見てとれる。画面に顔が映らないオンライン授業では、学生の理解度が直感的に把握できないので、学生との信頼関係を築くことが困難になるのではないか。

→ [下間部長] 学生の参加意識の向上と講師の負担軽減のため、カメラ付きのノート PC を配布し一律のオンライン環境を整備する準備をしておき、解決して行きたい。

- [香川委員] オンライン授業では、授業外の時間が減るために、先生との雑談などができない話を良く聞くが、メンタル的なケアなどは行っていたのか。
- [下間部長] 以前よりもオンラインでの面談は増えた。担任とのコミュニケーションは遜色なく取れていた。しかし学生同士の横のコミュニケーションが減ったため、学生同士の切磋琢磨するリアリティが少なかったように感じている。
  
- [赤松委員] オンラインによる弊害の具体例はどのようなものか。
- [下間部長] オンラインでは1対複数の授業ではなく、実質的に1対1での授業形態となってしまうために学生は他人の失敗を学ぶ機会が減っている。講師は同じ指摘を個別に繰り返さざるを得ず、失敗経験の差によって、スキルに大きな溝が生じないように指導するため負担がかかっている部分がある。
  
- [安道委員] 講師ともオンラインで雑談できる場があればより繋がりを強化できる。講師と学生が自由に出入りできるオンラインルームを定期開催してはどうか。
  
- [安道委員] 集団が苦手な学生や通学時間が長い学生は、オンラインの恩恵を多く受ける話を良く聞く。オンライン教育の良い部分は残して多様な学生の状況、個性に対応して行くことが望ましい。
- [森学校長] この2年間で、オンラインのおかげで学校生活を終えられたという学生はいた。学びにおいての平等を享受できるよう制度整備を進めたい。
  
- [安道委員] オンライン授業は学生側にも精神力が問われるだろう。いかに自分から取り組む姿勢を取らせるかの工夫が求められる。
- [森学校長] クリエイターの視点からすると、(オンライン授業の際)講師の顔や板書を平面で映すのと、教室の雰囲気を含めて映すのはどちらがより集中力が高まると考えられるでしょうか。
- [安道委員] ライブ感は非常に大切だと思う。エンターテインメント分野では、緊張感を出すため(出席学生に)オンライン先で参加していると錯覚させるような手法が、良い結果を出しているようである。

■ [香川委員] 制作の面白さは一定のスキルを身に付けて初めて体感できるように、制作意欲も自信の上に成り立つ。イベントが縮小されたことで成長を実感する機会が減ってしまっているのではないか。

→ [下間部長] 自己肯定感を培う場が少なかったかと思う。例年であれば、学園祭の一般開放日などで経験する専門外の人からの評価がこれに当たる。学習成果を発表する場がもっとあったうえで報奨があれば成功体験になるため、機会の確保が必要と考えている。

## ② 就職状況 [岩本キャリアセンター係長]

### ① -1 就職状況（実績）について

今期と過去2年同時期との就職率比較は表の通り。

### ② -2 業界の求人動向について

ゲーム業界やアニメーション業界などコロナ禍の影響が少ない分野を志望する学生が多いこともあり、就職率は大きな変動はなく推移している。リクナビ、マイナビでの応募が解禁される3月以前から選考を開始する企業が増加傾向にあり、就職活動の早期化・長期化への対応が必要となっている。

### ③ -3 卒業生の社会的な活躍について

これまで卒業生との関係は、担任との個別の繋がりによって成り立っていたケースが多く、組織的な情報収集には至っていなかったが、今年度からinfoClipperが導入されたことにより、卒業生の就職先や連絡先等が一元管理可能となった。卒業生への情報発信や、情報収集の方法を検討していく必要がある。

### ③ -4 総括（活動報告、次年度方針など）

来年度は対面での発表会を再開し、学生がクリエイターと直に接する機会を設けたい。大阪府内ではすでに対面での採用イベントを実施している専門学校も多く、複数の企業からリクエストをいただいている。

また、マンガイラスト学科、ノベルス文芸学科の就職対策としてキャリアセンターが実施する就職ガイダンスに加えて、来年度はOSAKA しごとフィールド（ハローワーク）主催の学内就職セミナーを実施予定である。

## 【質疑応答・感想】

■ [赤松委員] マンガイラスト学科やノベルス文芸学科、声優は表に無いのはなぜか。

→ [岩本係長] 該当3学科は就職ではなくデビューを目指すため、就職を目指す学生はまれ。就職に代わり、オーディションによる所属や、漫画賞、文学賞などの受賞を目指している場合が多い。

→ [森学校長] マンガイラスト学科、ノベルス文芸学科から企業への就職希望者が出た場合はキャリアセンターで個別に対応している。声優学科においては学科担任がオーディションと就職の両方をサポートしている。

■ [赤松委員] 声優学科の学生は露出が多く、優秀だという話をよく聞く。他の学科はどうか。

→ [岩本係長] 例年高水準を保っているが、今年は優秀な学生の多くが大手企業に就職する結果を出した。

■ [赤松委員] 講師は就職指導を行うのか。

→ [香川委員] 相談には乗るが指導は行わない。

■ [森学校長] 旧体制の傾向としては、大学に行けない生徒の進学先や、好きだからと軽い気持ちで入学し退学する者が少なからずいたが、学校法人専修学校になってからは明確なビジョンを持って入学する学生が増えている傾向。学生の高い意識が結果として現れている。

■ [香川委員] 数字が出ることは学生にとっても良いことだと思う。

■ [森学校長] 専門学校使命として、進路が決まって当たり前で、目指す業界への進路が決まらなかった学生については一般就職を目指す指導は必要である。本校としては業界就職が前提で、進路変更した場合も学んだスキルを活かせる職種に就けるようサポートをしている。

■ [安道委員] ノベルス文芸学科などは、大目標として作家デビューを目指す学科だと思うが、就職を目指す学生が増えてきているのではないか。これは現役の作家が、作家だけでは食べていくことが難しくなっていると公言している影響もあると思う。

■ [香川委員] 一般企業へ就職する学生に、夢の挫折と捉えさせてしまうのは避けて欲しい。

→ [森学校長] デビューを目指す学科においても、学んだスキルを活かせる職種に就けるようサポートをしている。また本人が希望する場合、継続してデビューを目指し続けられる環境の職場を紹介も行っている。

→ [安道委員] 漫画家や作家を目指す場合、あらゆる経験が創作の糧になるため、どんな職種についても無駄になることはないので学生が就職支援に前向きなのは喜ばしい。今後も支援を続けてほしい。

■ [香川委員] 講師の方々には、それでもわずかに漏れる学生に対するケアを心がけて頂きたい。学校には、その指導をお願いしたい。

- [香川委員] 学生たちを受け入れる企業、ゲーム制作現場会社側に居る物として、入社してくる大学・専門学校の卒業生を見ていて、早期に就職が決まった学生ほど他の学生に比べて、就職後の伸びが悪い傾向を感じている。
  - [下間部長] 本来モチベーション維持のため、年度末に卒業進級展を設けているが、上手く機能できていない可能性がある。
  - [香川委員] 二年制の学校で一年近い研鑽を怠ることは、入社後に大きな遅れとなる。入学から一年での伸び具合を見ての採用である以上、入社時に同期と比べて頭一つ抜けているレベルまで研鑽してほしい。
  - [下間部長] 進路の決まっていない学生から指導して行くため、この傾向はいなめない。非常に重要な指摘。現状の指導からすぐに反映していきます。
  
- [安道委員] 能力を育てるためには習慣を身に着けさせることが効率的であると考え。プロの制作は習慣によって当たり前になっている。やり方は指導できるだろうが、それが習慣になるかは学生個人次第。習慣づけを行う方法論を各学科の教育現場で用意することが必要。

### ③入学生募集状況 [朝日事務局副部長]

#### ③-1 学生募集状況（入学者数実績）について

現段階での定員充足率は90%と今年度も一定の充足率は維持できると考えている。  
一方で、一部の学科で数値が著しく減少しており、様々な要因が考えられるものの、  
分野や職業に対する志願者ニーズの変化がそのまま数字に表れた一年であった。

#### ③-2 特待生入試運営について

全体の受験者数は昨年比-34名となっているが、昨年はコロナ禍における緊急支援措置として第3期追加募集の実施（※今年度は未実施）が影響していると思われる。また、C・D判定の受験者が昨年33名に対し今期54名と20名以上増加している点や、実際に受験から出願に至った入学率も、昨年86%に対し今期95%とこちらも大幅に数値を伸ばしていることから、受験者の意思意欲の高さや質そのものが上昇していることが伺える。本制度の趣旨目的である「将来性を有した優秀な人材を発掘・育成し社会に貢献する人材の育成に寄与する」に対して、一定の成果が得られたと考える。

#### ③-3 高専接続・中学校対応について

これまで、私立星翔高等学校「キャリア選択授業」をはじめ、高等学校からの要望を受けて、職業理解に関する講話や職業体験の実施など高専連携に積極的に取り組んできた。今年度に入ってから、中学校から同様の要望を受けており、中学生に向けてのキャリア教育・職業教育の取り組みに貢献している。

#### ③-4 総括（活動報告、次年度方針など）

次年度に向けては、YouTube や各種 SNS を活用したオンラインでの情報発信を更に強化し、志願者やその保護者への適切な情報提供を行うと共に、留学生の受け入れ体制整備、中高生向け出張授業の充実化、特待生入学の活用などを行い、定員充足率100%を目指していく。

#### 【質疑応答・感想】

- [赤松委員] 派手な広告をしていないにも関わらず業界からは高い評価を聞く。
- [森学校長] WEB 対策にコストを掛けている。次年度より WEB ページがリニューアルされる予定。
- [赤松委員] ホームページの印象は重要。学校の信頼度に関わる。

■ [安道委員] ゲームプログラマー学科の出願数急減はなぜか。

→ [朝日副部長] ゲーム系の大学・専門学校が勢力を伸ばしていることが要因。プログラミング教育が開始されるなど、若年層の認知が広まった反面、ゲームプログラミングは難しいと捉えられる傾向か出ていることから、ゲームプログラム以外に SE や AI など IT 情報系の包括的な学習を謳う学校が好調。広範囲の学習から多くの職種に対応するイメージがついている。本校はゲームのプログラムに特化していることから、比較検討で遅れを取った結果となったと考えている。また、コロナで高校での進学ガイダンスが減った影響が如実に現れている。ゲームプログラマーという職業に対する理解が足りず、敷居がたかくなっていると感じている。

→ [下間部長] プログラミングが必要なエンタメが、ゲームだけではなくなっていることも影響していると考えている。

→ [森学校長] より専門的にゲームのプログラミングを学び、2年という短期間で業界就職できることが本校の強みだが、時代に合わなくなっている部分がある。ゲームクリエイターへの統合を含めて対策を検討していく。

■ [香川委員] IT や AI、システム系でプログラマーの需要が急速に増えており、職業として細分化されつつある。ゲーム業界での一例として、近年 TA（テクニカルアーティスト）が必要とされている。これはプログラミングスキルのあるグラフィッカーの事で、CG 作成時にプログラミングを取り入れることで高度な表現を実現させる職種。

→ [安道委員] これまで別の専門性と捉えられていた技術が複合され、新たにカテゴライズされているように感じる。対応するカリキュラムが必要ではないか。

→ [下間部長] 今年の1年生に一名、カプコンに TA 採用の学生がいる。TA 多くのゲーム企業で需要が高いが、企業毎に求めている TA の意味は異なるため一律での教育は難しいのが現状。

■ [香川委員] ゲーム全体のことを図れる授業構成の学科が今後求められるのではないか。

→ [下間部長] ゲームプランナー学科をゲームクリエイター学科として、ゲームエンジンなどプログラマーに近い授業割合を増やしていく。

■ [香川委員] You Tube や SNS を高校生がどの程度活用しているか、また、好調であるか。

→ [朝日副部長] アナリティクスからある程度の傾向は把握できているが、動画によって目的が変わるため、一概に評価できない。単純に再生数で捉えるのではなく、目的ごとにどのようにアクションにつなげるかを重視している。

- [香川委員] 20年前は専門雑誌だったが、今は SNS が学校を探すツールとなっている。
- [朝日] 学校広報の動画は飽和状態となっており、学校紹介動画を上げるだけでは効果は薄い。第三者からの発信など拡散の工夫が必要。
- [下間部長] 現状の本校 You Tube は求める情報がある場合に参照するものになっているが、学生募集の観点では You Tube に呼び込む施策が必要と考えている。

#### ④学生支援（飯間学生課長）

##### ④-1 コロナウイルス陽性者について

陽性者数 51 名（学生 47 名・講師 4 名・職員 0 名）全員学外感染。学内感染及びクラスターはなし。基本的な感染対策に加え、オンライン・分散登校での授業運営と在宅勤務を活用した職員の分散出勤を継続して行い、学内における感染対策を徹底してきた。

##### ④-2 修学支援新制度(高等教育無償化)利用状況について

≪令和 3 年度≫

対象人数 1 年：90 名 2 年：81 名

合計：171 名

授業料減免 76,747,100 円

入学金減免 7,101,600 円

減免合計 83,848,700 円

前期（令和3年4月～令和3年9月）

	第一区分	第二区分	第三区分	対象外
1年	52	22	13	3
2年	46	20	8	7
	98	42	21	10

≪令和 2 年度≫

対象人数 1 年：88 名 2 年：66 名

合計：154 名

授業料減免 67,393,900 円

入学金減免 700,200 円

減免合計 68,094,100 円

後期（令和3年10月～令和4年3月）

	第一区分	第二区分	第三区分	対象外
1年	52	20	10	8
2年	49	12	12	8
	101	32	22	16

前年度より、対象人数が微増、給付金額も増加している。

制度の周知が広がったためと、支援が必要な学生が増加したためと考えられる。

コロナ禍で説明会の開催ができなかったが、Google Classroom の活用や教務との連携で適切な情報提供や相談対応を行えた

##### ④-3 入学式及び卒業式等の式典運営について

令和 3 年度の卒業式も、新型コロナウイルス感染症まん延防止重点措置期間の開催となった。感染症対策を徹底し 2 部制に学科をわけての開催。声優の森川智之氏や、講師や卒業生の方々からの祝辞の映像を式次第に取り入れた。しかし、コロナ禍の影響か、欠席者の目立つ結果となり、保護者の来場も少なかった。令和 4 年度入学式も、同様にコロナ禍での運営となるため、卒業式同様 2 部制開催を予定している。コロナ禍での式典運営は 2 年目となり、一定のモデルケースができつつある。

#### ④-4 総括（活動報告、次年度方針など）

依然としてのコロナ禍、支援を必要としている学生も増え、個々に応じた対応がより一層必要となる。新たに導入した Infoclipper での学生情報の蓄積・共有、教務との連携を強化する。また Google Classroom をはじめ、本校ホームページリニューアルで新設される在学生・保護者向けのページを活用し、適切な時に必要な情報を提供し、細やかな学生支援につなげていく。

#### 【質疑応答・感想】

- [香川委員] 関西圏で聞く他の学校と比較すると、コロナ感染に関しては奇跡的な低い陽性率。
  
- [香川委員] 今年の卒業生に関しては、学校生活の思い出をあまり残してあげられなかったのではないかと。式典を挙行はしておられるが、有り難みを感じられる生徒が減っていることを想像すると悲しく思う。
- [安道委員] 本学校の前身校の卒業生としては、楽しい思い出として式に出席したことを覚えている。卒業式に意義を持たせるためにも、卒業生同士の横のつながりをもたせていただきたい。
- [森学校長] 学校としては安全に考慮した上で、人間形成にも心がけるひつようがあると考えている。

#### ⑤令和四年度学校運営について（森学校長）

本日はご多忙の中、長時間のご出席をありがとうございました。新年度から学校法人としての運営をより一層強化してまいります。

本学校関係者評価に関しても年 2 回以上の開催を定例化する計画です。それに伴い、委員数名の増員を予定しておりますことをご了承いただきたく思います。

本日出席された委員の皆様におかれましては、引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。

以上